

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600153		
法人名	サン・ミルク 株式会社		
事業所名	横川目グループホーム長寿園		
所在地	北上市和賀町横川目13-3-4		
自己評価作成日	平成26年8月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390600153-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所と職員は、利用者及び家族の思いを尊重し、共同生活の一員として常に利用者の立場に立った援助を行う為に、以下の点を基本理念として取り組んでいます。

- (1) 利用者様の安全・安心を第一とします。
- (2) 利用者様の意志を最優先します。
- (3) 地域のお役に立てる施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園の中の木立に囲まれた丘に位置し、小学校に隣接し、前庭でのくつろぎや周辺の散策など、生活環境に優れた位置に立地している。事業所運営あたっては、事業所で作成した理念を共有し、職員による日頃の状況把握に加え、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成し、利用者本意のサービスの提供を行っている。更に、周辺の家庭を個別訪問し、事業所のイベントや催しものなどを案内し、イベントや避難訓練への住民の参加のほか、事業所内での旧家の昔物の展示への協力を得るなど、地域とのつながりを大切にしている。また、職員の資格取得への支援のほか、利用者の認知症カフェへの訪問やバリエーション療法などの新たな認知症対応に取り組むなど、役職員一体となり、積極的に介護サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「理念」「職員の心構え」は開設時に管理者、職員で話し合っ決めて。事務所、玄関、ホールに掲示し各自が確認しやすいようにしている。	毎朝社長の訪問による朝礼を開催し、利用者への配慮を大切に、理念の共有を図っている。特に新人については、利用者本意を大切に、先輩への相談に加え、自ら考えながら利用者へ接するよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に加入し回覧板を回して頂いている。中学生、高校生の職場体験、家庭で使わなくなった雛人形をお借りして施設で展示して見に来て頂くようにチラシを回した。受診に関して家族がタクシー送迎を希望され、地域のタクシー会社をお願いをして8月より行っている。	月に1回開催の餅つきの餅を周辺の家庭に提供し、住民とのつながりを大切にしているほか、夏祭りへの参加や公民館からのテントの借用、避難訓練への協力など、地域との連携を図っている。新たに、地域のタクシーによる利用者の診療送迎など、サービスの向上に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・夏祭りや運動会等で交流を持つようになり、グループホームがどのような所なのか、少しずつ分って頂けるようになって来た。また北上市の歳末助け合い演芸大会に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・民生委員、駐在所員、地域包括支援センター、利用者、家族、施設代表で構成し2か月に1回会議を設けGHの運営状況をお知らせしたり、皆さまから助言を頂きながら運営の向上に活かしている。	利用者の外出対応や危険情報の提供など、適時的確な情報を会議参加者から得て、対応しているほか、他の事業所の参考事例の提供を得て、運営に反映させている。また、利用者の意向や職員提案による菓草茶の提供などで、体調の改善を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市の地域密着型担当者や地域包括支援センターの担当職員と連携を図り、運営推進会議の内容について等、分らない所は質問させて頂き、意見等も頂いている。集団指導会にも参加して運営に反映させている。	包括支援センターが市の直営となり、より一層緊密な連携が図られている。また、市主催のケアマネジャーの会議への出席のほか、地域のグループホームの会議に出席し、介護知識の習得と情報を収集し、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施錠は夜間のみで日中は開放している。身体拘束はどのようなものがあるのかや、拘束を行わない為の対応については会議の中で話し合い職員一人一人が意識している。	玄関の施錠は夜9時から朝7時までとし、玄関の出入りはセンサーによる確認を行なっている。外出希望者には利用者のパターンを把握し、会話や周辺の散策などにより、対応している。言葉づかいなども、利用者の尊厳を大切に、優しく対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修等を受けた職員が中心になり、勉強する機会を設けている。ダメと言う言葉は使わない等、日頃の援助方法や接遇についても見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護や成年後見制度について研修を受けた職員が中心になり、研修等を行っている。研修に参加する機会があれば介護職員も研修に参加できるよう支援している。現在成年後見制度を利用されている方は居りません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時、条文を読んで説明し、意見を尋ねたうえで契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置しているが家族は面会時などに管理者や職員に直接お話して下さる。遠方にお住いの家族には電話で連絡し合いつながりを持っている。利用者の状況や大事な事は毎月お出しする手紙で報告している。	家族の来訪時に、意向を聴いているほか、遠方者には、広報で状況を知らせたり、電話で問い合わせを行い、家族とのつながりの継続を大切にしている。特に、特別科目の受診希望や歩行訓練などの要望を受けて、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎朝の朝礼や毎月の職員会議で職員一人ひとりから意見などを聞くように努めている。また業務中に意見がある時はその都度言ってもらっている。	利用者の担当制をとり、職員からの報告を一人ずつ受けているほか、食事、感染予防、身体拘束など、普段の業務の中で、自主性を大切に、意見、意向を出せるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務体制(人員)の確保、適正な給与体系等、条件の整備に努めている。また、研修等に参加する機会を設け向上心を持てるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修に参加し、内部研修に活かせるようにしている。 ・法人で加入している倫理法人会の「職場の教養」を使用し朝礼を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のグループホームの定例会や花北地区の定例会に参加し、お互いの施設の情報交換等を行っている。他グループホームの職員交換研修は昨年は行ったが今年度は行っていない		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の事前調査の際、本人の要望を伺い、ケアしていた介護職員やケアマネ等にも状況を伺い関係作りに努めている。 ・出来る限り、入所前に御本人にも施設を見学して頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・訪問調査時に家族の要望や悩みを伺い把握するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者さんにどのような要望があるのかを把握し、場合によっては居宅支援事業所と連携を図っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理や食事、片付け、お茶の時間やドライブ等、一緒にその日の予定を考えたり、余暇を一緒に過ごしたりすることにより、相互の関係作りをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や行事等を通して、話を聞く機会を作り一緒に支え合えるような関係作りを行っている。 ・利用者さんの状態の変化等、その都度連絡し情報を共有出来るようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や親戚、友人などが面会に来られた際は自室や談話コーナーでお茶を飲みながらゆっくりと談笑できるようにしている。 ・馴染みのある方と電話でお話して頂いたり、年賀状を出して関係が途絶えないようにしている。	近所の友人の訪問のほか、住まいの近くの山野草の見学に出かけている。また、家族の案内による墓参にも出かけている。利用者の家族への電話の取次ぎや年賀状の提出など、きめ細かな対応をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者さん一人一人の個性や利用者さん同士の関係性を理解し支援に努めている。 利用者間のコミュニケーションに支援が必要な時は、職員が仲介に入り、利用者間の関係作りを支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方の面会に行き、生活の様子等介護職員に伺っている。 ・ご家族等から相談があれば、出来る限り支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・施設での生活の意向については、入所時の面接の際に御本人ご家族に希望等伺い把握に努めている。 ・毎日の生活の中でも希望等を伺い、生活に活かせるように努めている。	入居時に家族から生活歴を聞くほか、利用者の希望に配慮して対応している。利用者の状況は、個別にファイルを作成し、日々の状況を記録・保管し、職員が何時でも状況を把握し、伝達できる体制をとっている。更に、利用者への対応については、上からの目線ではなく、利用者本位の対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の訪問時や家族さんが面会に来られた際に話を伺っている。また、毎日の生活を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の生活の中で利用者さんの生活パターンや心身の状況の変化について把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者本人及び家族の意向、心身の状況を把握し、介護職員、かかりつけ医等の関係者から頂いた意見アイデアを反映し介護計画を作成している。	本人や家族の意向に加え、かかりつけ医の指示を受け、各担当職員からの報告及び意見等を受けて、計画の評価を行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や介護・処置の記録、食事・水分量、排泄チェック等、記録している。その記録を見直し、介護職員の意見等聞き計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当施設は1ユニットを主としており、この範囲内での可能なサービス提供に取り組んでいる。認知症の進行がいくらでも遅くなるようにリアリテイオリエンテーションや騒いだけ徘徊するにも「意味がある」として捉え、一緒に行動したりするバリデーション療法を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・可能な範囲で、民生委員、区長、、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・現在5名の方が訪問診療を希望され月2回職員立会いの下受けられている。他の方は家族が受診に同行している。GHでの生活中で気になる事がある時は主治医に電話などで報告し指示を仰いでいる。・緊急時や御家族の都合によっては職員が対応する事もある。	入居時に希望者には、訪問診療医に転医し、訪問診療、情報提供を得ている。特定の受診科や、これまでのかかりつけ医の希望者には、従来どおりの診療を行なっている。また、予防接種については、希望者には訪問診療時に対応している。リハビリについては、利用者の負担により、病院に送迎している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・木曜日に看護師が健康管理を行っている。 ・急変時についても連絡体制を築き、日常生活を安心して送れるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時、または面会時にも情報交換を行い、医療機関との連携に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・今まで1度だけ看取りを経験した。看取りに関する指針についても文書化して作成した。事業所での看取りを希望されているご家族もいらっしゃるの、指針をもとに行っていく。	看取りの経験後に、訪問診療医による職員の対応について指導(勉強会)を受け、より一層の的確な対応をするよう配慮している。さらに、家族との対応について指針をつくり、重度化時の対応や看取りについて、理解を深めるとともに、同意書の作成など万全を期している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応マニュアルを作成し、事業所に備えている。隣接するデイサービスとAEDの使用方法について研修会を行った。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署員に立ち会って頂き避難訓練を実施している。夜間の1人対応を想定した訓練や、実際に外が暗くなってからの訓練を行った。終了後は検討会を行い改善点を出し合っている。毛布、水、反射式ストーブ、ライトなどは備えている。地域の方にも緊急時には協力を頂けるようお願いしている。	避難訓練については、夜間の訓練を地域住民の協力を得て、避難利用者の見守りを実施したほか、消防署員の指導を得て、大声での呼びかけ、トイレの確認などを改善実施している。また、年1回は隣接するデイサービスと共同の訓練を実施している。更に、今後は、降雪時の訓練についても検討を加えることとしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・会議や朝礼時に認知症の方への声掛けや対応方法を確認をしている。人生の先輩として、同じ目線で優しくお声掛けをし一方通行の対応とならないようなケアに努めている。排泄介助・入浴介助などでもプライバシーを尊重したケアに気をつけている。	設置者による倫理を大切に朝礼により、職員間でサービスの提供者としての心構えを共有し、利用者を人生の先輩として尊重し、言葉遣いや接し方などに、細心の注意を払っている。特に、排泄の介助、入浴時の見守りなど、自立を支援し、的確な対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中でゆっくり会話する時間を持っている。その会話の中で本人の思いや希望を聞けることが多く、職員一人一人が利用者さんの発する何気ない一言を聞き、職員間で共有している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の体調や気分に合わせて、その日の過ごし方を声掛け等で確認し、援助している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・毎朝、整容し身だしなみを整えている。自身で上手に出来ない方には職員がお手伝いし整容している。3か月に1回程度、美容師に出張してもらい散髪している。 ・季節や場に合った装いが出来るよう声掛けしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・行事食や季節の食材を取り入れた献立を工夫している。誕生日にはリクエストメニューを取り入れている。外食も行い、今年は回転寿司に2回行き、好きな物を自分で取って食べられる楽しみを感じて頂いた。食器拭きや能力に応じた調理なども手伝って頂いている。	献立については、利用者の意向や季節の食材、地域の野菜などを活用し、家庭の雰囲気や大事にしたメニューとしている。また、手作りの誕生ケーキや外食でのラーメン、ソフトクリームなどをドライブ時に提供している。利用者による食後の下膳に加え、料理の下準備の大根、長いもなどの擦りおろしなどの手伝いも得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の食事量や健康状態に合わせて量の加減をしている。旬の食材を取り入れて調理している。 ・食事摂取量が低下している方には医師に相談し高カロリー飲料等提供し栄養のバランスが確保出来るようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアを行うよう声掛け、誘導、介助を行っている。自身で出来ない方には職員が介助し歯磨きしている。 ・夕食後は入れ歯を水や洗浄剤に浸け清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表でパターンを把握したり行動観察を行い、一人一人にあった声掛けや誘導を行っている。	利用者個々の排泄のパターンをチェック表等で把握し、個別的な声掛けにより、トイレでの排泄を促している。入院中にオムツ使用になった利用者の方もリハビリパンツになり、それから布パンツ(+パッド)と状態がよくなってきた。水分量の目安は1日1,200~1,500ccとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便状況を把握し、便秘時は牛乳を飲用したり、腹部のマッサージをしたり、自家製のどくだみ茶やスギナ茶で自然排便を促す様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は1日おきや週に2~3回、本人の希望や体調を考慮し入浴して頂いている。入浴前にバイタルチェックを実施している。夕方に入りたいと言う方には順番をずらして要望に応えられるように努めている。6月に蓄熱風呂を数回行いリッチな入浴を楽しんで頂いたりしている。	入浴は毎日、午後2時から行い、利用者は週2~3回の入浴となっている。バイタルチェックは午前と、入浴1時間前に行い、健康に万全を期している。また、デイサービスでの温泉、事業所内でのミント、ゆず湯、外出時の足湯など、季節などを配慮し、入浴を楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・午睡の習慣がある方は、これまでの生活習慣を大事にして頂き休んで頂く。 ・夜間、ゆっくり休んで頂けるように日中に体を動かす機会を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の主治医の指示薬の理解と服薬管理に努めると共に、変化が見られた際には医師(及び家族)への報告に努めている。また、服薬チェック表を用い、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人の心身や状況の変化、意向を尊重し日々の生活の中で役割を持てるよう援助している。 ・散歩やドライブ、行事等に参加して頂き気分転換をして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は希望を聞きながら近所を散歩したり、花が綺麗に咲く場所や道の駅などでソフトクリームを食べにドライブへ行く事もある。年に1から2回は外食へ出掛けご自分で好きなメニューを選んでもらう機会も設けている。家族が面会に来られた時は昼食を食べに出掛けられる事もある。	自然環境に優れた事業所周辺を散策するほか、事業所前に長いすを出し、外での眺め、歌、歩行など自由な行動を促している。また、ドライブで外出し、季節の変化を感じるほか、近隣の町の「認知症カフェ」に利用者を案内し、他の認知症者や家族との交流を図り、利用者の症状の改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・御本人で管理できる方は、そのまま自身で管理して頂き、欲しいものがあれば職員が購入して来てお金を頂いたり、職員と一緒に買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族に電話をかけたいと話された方には職員が電話をかけ、家族さんと本人がお話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な生活空間や環境作りを目指してカレンダーや絵画等飾っている。玄関にも季節の花等を、職員の自宅にしている花を摘んできて飾っている。利用者の皆さまにも折り紙などで飾り作りをして頂き共有スペースや自室に飾って頂いている。	広々としたロビーと安楽イス、畳の部屋を設置し、高い天窓から自然光が降り注いでいる。床暖房とエアコンによりの確な温度調節がなされ、優れた生活環境のもと、利用者はそれぞれの場所でくつろいでいる。季節の飾りや、活花がさりげなく置かれており、簡素な中に調和の取れた環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・畳コーナーや談話コーナー、食事席や居室等、利用者さんの好きな場所で寛いで会話して頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた布団や衣装ケース、カップやアルバムなどを持って来て頂き、馴染みのある生活を継続できるようにしている。	ベッド、クローゼット、イスが備え付けられており、室温はエアコンで管理されている。利用者の馴染みの品物のほか、持ち込みの布団を使用し、家庭の雰囲気を出している。また、事業所からの誕生日プレゼントのぬいぐるみが部屋に置かれ、温かい雰囲気をかもし出し、居心地のよい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内の動線を解りやすく設計しているが、必要に応じて表示を行うなど日常生活を安心して送れるようにしている。		